

発達障害児と共に学ぶ ～保育園行事へのスムーズな参加～

中 塚 雅 子 落 合 利 佳

保育園の現場でみられる発達障害の中でもとりわけアスペルガー症候群の子ども達を取り上げ、彼らに対する行事での支援について具体的にまとめて報告した。彼らを支援・援助していく上で大切なことは、可能な限り失敗体験や嫌悪体験をさせないことである。その意味では、運動会・お遊戯会といった園行事は、マイナス体験をしやすい場であり、見通しを持たせ、事前に十分に彼らにわかる形で様々な予告をするなどの支援が必要である。

キーワード：アスペルガー症候群、自閉症スペクトラム、行事、運動会、お遊戯会

はじめに

発達障害には精神遅滞、学習障害、注意欠陥多動性障害（以下AD/HD）、自閉症スペクトラム障害などが含まれる。一般にAD/HDは100人に2～3人、自閉症スペクトラムでは、100人に6人と言われていたが、最近では16%という報告もあり、その頻度は増加する傾向にある。^{1,2)}近年、保育園・幼稚園で長年にわたり現場で経験を積んでおられる園長先生方から「気になる子」が増えてきているという指摘を受けることが多くなってきた。こういった子どもの中にはすでにはっきりと診断名がついている子どもが多く、診断を受け療育に通っている子どもに加え、彼らに類似した行動パターンをとっているまだ診断名がついていない子どもも合わせると、いずれの園においては約1割に上るといわれている。

彼らは、明らかな知的障害がなく、会話が来ているのにもかかわらず、集団に入れない、突然理由もなく（本人にはあっても、周囲の

者には理解できない理由で）切れる、会話が突然始まる、周りの者が予想していない反応をするなどの行動が園において観察されることが多く、こういった子どもに、「広汎性発達障害」、「高機能自閉症」、「アスペルガー症候群」、「自閉症スペクトラム障害」といった診断名がつくかもしれない。

自閉症スペクトラム概念はローナ・ウイングが1979年に提唱したものであり、自閉症のみに特徴的にみられる3つの特徴（俗にいう三つ組）をまとめたものである。すなわち、①社会性の障害、②コミュニケーション障害、③想像力の障害であり、これらは、カナータイプの自閉症、広汎性発達障害、高機能自閉症、アスペルガー症候群にも共通して認められる特徴である。ICD-10によるアスペルガー症候群の診断基準によると、知能は正常、言語発達に明らかな遅れがないが、「対人関係の希薄さ」と「こだわり」があることとなっている。具体的には、前者は「友人関係をうまく作れない」、「集団の中で浮いてしまう」、「場の空気が読めない」、「暗黙の了解がわからない」、「冗談が通じない」、後者

は「時刻表を隅々まで覚えている」、「自分の手順通りにしないと気が済まない」、「特定のキャラクターが非常に好きで収集している」などがあるが、その根底にあるのはウイングの提唱した3つ組に他ならない。^{3,4)} いわゆる古典的な自閉症であるカナータイプと比較して、アスペルガー症候群ではこの三つ組が時として目立ちにくく、ちょっと見た目には健常児と何ら変わらない。そのため、周囲に彼らの持つ困難さが気づかれにくく、わがまま、自分勝手、頑固、空気が読めない、冗談が通じない、融通が利かない、集団に入れない子どもなどとみられがちである。

保育園で行われる主な行事に運動会とお遊戯会がある。この2つの行事は日常の園生活とは異なるため、変化や予期せぬ事態に弱く、時に感覚の問題を抱える自閉症スペクトラム障害の子どもにとっても、彼らを支える保護者や園関係者にとっても大きな試練の場となる。どちらの行事も、それらに向けて練習をする事から始まる。こういった行事に関しては、本番当日の配慮も勿論必要であるが、練習段階からの配慮と支援は避けて通れない。こういった大きな行事を経験する毎に、子ども達は大きく成長するが、それは、自閉症スペクトラム障害の子どもにとっても同じ事である。現場にいる保育士は、そんな大切な行事だからこそ、嫌な思い出ではなく、楽しい思い出として心のアルバムに焼き付けて欲しいと願い、そして、そのためのお手伝いができれば・・・という一心で準備し本番当日を迎えることになる。

W園では通常、運動会は9月末、お遊戯会（生活発表会）は12月に実施している。練習は、運動会は9月に入ってから、お遊戯会は11月から始める。W園においては日常の園生活においては、それぞれの児にあわせた様々な配慮・支援

を行ってきている。今回は、行事（運動会、お遊戯会）に焦点をあてて、スムーズな参加を促すための、長年にわたる試行錯誤の中で、現在一定の効果が得られている配慮・工夫について以下に述べさせていただく。

本 文

1. 運 動 会

乳児組は保護者と一緒に参加するだけなので、こちらからの特別な配慮はしていない。従って、本著では主に幼児に対する工夫と配慮を中心に述べる。

1-1 運動会の特徴

以下はW園の運動会の特徴であるが、これからもわかるように、感覚に問題を抱える子どもにとって視覚的、聴覚的刺激に満ちていることを理解しておく。また、いつもと違った事柄は予定の変更や予期せぬ出来事に混乱する彼らにとっては狂騒と混乱に満ちた混沌とした世界であり、十分にパニックの原因となりうることも理解しておく。

1. 万国旗が張っており、園庭の周りにテントが張ってある。
2. キャラクターなどを描いた装飾がしてある。
3. 保護者や、祖父母などの観客が周りを囲んでいる。
4. 保育士の服装が違う。（普段はエプロンをしているが、エプロンはなくみんな同じジャージとポロシャツを着ている。）
5. 登園する場所が違う。（普段は保育室だが、運動会当日は園庭に登園する）
6. 練習時より大音量の音楽が常に流れている。

る。

7. 終了後にタオルなどのお土産がもらえる。

1-2 練習

練習を始めるにあたって以下のような工夫が効果的である。いずれも本人に理解できる形で事前に十分に予告しておくことが大事である。

◎ 練習のすすめ方

まず、クラス単位の練習から始めて最終的に当日のプログラム順に予行練習を行う。競技種目（表1）と具体的な流れ（図1）を示す。

開会式、体操、かけっこ、競技、リレー、ダンス、鼓隊、閉会式

表1 開閉会式を含む競技等練習種目

クラスで練習→総合練習（全クラス）→プログラム

図1 具体的な練習の流れ

◎ 練習を始めるに当たっての注意点

- ・ いつから練習を始めるのかを、カレンダーを使い前もって知らせておく。
- ・ 練習内容（何に出るのか）を知らせる。

◎ 練習で特に注意する点（表2）

予想できないこと、不意の変更に弱い子ども達であるので、いつまで、何回練習するのかわからない環境は、先の見えない暗闇の中にあるような非常に不安で苦痛を強いることになる。時として、いらいらしたり、端から見て、だらけたり、ふざけたりしているように見えたりもする。それを乗り切るためには、表2に挙げたような対処が有効である。

以下に表2に挙げた内容を具体的に説明する。

- ① 練習カード…その日の練習回数をカードに書いて知らせる。（図2）その際には、最初に約束した練習回数はどんなことがあっても絶対に守ることが大原則である。一般的に1日2～3回が限界の子が多いので、それくらいを目処にしておくことが望ましい。また、練習カード作成の際には、数字の部分だけ差し替えられるように作ると便利である。

れんしゅう ○かい

図2 れんしゅうカード

- ② 練習後のお楽しみ…練習が終わったら何をするかを知らせておく。練習は子どもにとってそう楽しいものではないので、がんばった後には、ごほうびとして何か子ども達の好きな楽しいことをさせてあげるとよい。練習前にあらかじめ、練習が終わったら好きな遊びなど、楽しみに出来る事などを具体的に黒板などに書いて子ども達に知らせておくといよい。
- ③ がまんカード…友達にチョッカイを出してしまう子には「がまん」のカード（図3）をポケットに入れさせ、手を出しそうになったらカードを握って我慢する約束をする。我慢が出来たら、うんとほめる。当然、本番も持たせておく。

がまん

図3 がまんカード

- ①練習の回数を提示しておく

②練習をがんばった後には、ごほおびがあることを知らせておく

③がまんカードの活用方法、

④当日スケジュール（プログラム）の提示の仕方

表2 運動会の練習での注意点

- ④ スケジュール（プログラム）…ひらがなで書いたプログラムを用意し（図4）、終わった競技を赤ペンで消していく。クラス担当の保育士全員が持っておき誰でも対応できるようにしておくとうい。ペンで消すときには、対象児に見せて確認しながら消すようにする。プログラムは練習の時から毎回使い、その都度、新しい物を用意する。担当がいつも対応できるとは限らないので、担当がその場から離れている時は、担当の保育士が代わりに行うようにする。

プ ロ グ ラ ム	
1. たいそう	〇〇くみ
2. かけっこ	〇〇くみ
3. きょうぎ	〇〇くみ
.	
.	
.	

図4 プログラムの例

1-3 本番での注意点

次に本番での注意点を挙げる。

1. 待ち時間が苦手な場合、図鑑など好きな本（昆虫図鑑や恐竜図鑑etc…）を用意しておき、空いている保育室など静かな場所で本を見て待たせる。
2. お土産がある場合は、前もって知らせ見せておく。最後にお土産がもらえるとわかると頑張れる場合もある。また、中身がわからないとかえって不安になったり、いらいる子もいるので、実物をあらかじめ見せておく方が安心する。例として「閉会式まで頑張れば貰えるよ！」と伝えておくとうい。
3. お面を付けるのを嫌がる子は、ベルトの輪ゴムを付けないと嫌がらずに付けられる場合もあるので、紙ベルトにして試してみるとよい。嫌がっている子に無理強いはしない。
4. 万国旗が気になって動かなくなる子がいるため、準備ができた時点で見せておく。可能であれば、万国旗を張った状態で練習をさせておくとうい。

実際に上記のように細心の注意と配慮をしながら準備をすすめていても、本番には予期せぬことが起こるものである。実際にW園で経験した2例を挙げておく。

* 事例

- ①「お笑い」にこだわっていたY君の本番でのハプニング例。

Y君は、練習時には何の問題もなくリレーに参加していました。しかし、本番のリレーで順調にバトンを持ち走っていたY君は、次の人にバトンタッチをする直前、何を思ったのか突然その場でクルリと反転して反対方向に1周回り、結局、大幅に遅れ、そのチームは負けてしまいました。後日、理由を聞くと、「大勢の人が見ていたから、

笑わせないといけないと思った。」そうです。よく考えると、Y君はその頃お笑いに凝っていて、人を笑わせる事にこだわっていました。

②靴下のゴムでいらいらしたK君の例。

K君は普段からパンツやズボンをきっちり上げると、おしりにくいこむのが気になるといった、着ている服などの皮膚への圧迫感に敏感な子どもでした。大きな音や待つのが苦手なため、練習もすぐに嫌になっていましたが、本番ではスムーズに参加できていました。しかし、いつも履いていない靴下のゴムが気になりだしイライラしました。1度我慢させようとしたのが失敗で、イライラが激しくなってきたので、すぐに靴下を脱がせ、静かな場所でお茶を飲ませ落ち着かせ、何とか競技には参加することができました。しかし、その後、みんなと一緒に待つ事は無理になり、待ち時間は保育室でY君の好きな図鑑を読んで待つことになりました。待っている間は、担当の先生が一人付き、出番を知らせておき、担任が迎えに行くことで何とか無事に参加することができました。

2. お 遊 戯 会

2-1 お遊戯会の特徴

お遊戯会も運動会と同様に園児にとって非日常である。W園におけるお遊戯会の特徴は以下の6点がある。

1. お遊戯室で行う。(いつも過ごしている部屋ではない)
2. 3部構成で、1部(0～1歳児)、2部(2～3歳児)、3部(4～5歳児)となっている。

3. 保護者が100名近く入り、ほとんどすし詰め状態である。
4. 舞台の上でお遊戯や音楽をするが、最初は幕が閉まっていて客席は見えない。
5. 幕が開いた瞬間、舞台のギリギリ前までギリギリと保護者が座っているのが視界に飛び込んでくる。
6. 運動会と同様に終われば最後にお土産がもらえる。

2-2 練 習

表3は年齢別練習内容である。表4はよく見られる事例と年齢別の配慮・工夫ポイントである。その他の工夫点を以下に列記する。

1. 自信のない子や、動きを覚えられない子は後ろの列にする。
※なぜ後ろの列ばかりなのかを、前もって保護者に伝えておく方がいい場合がある。実際に、母親がアスペルガー症候群の疑いがある方で、何年も不満に思い続けられていた事があった。
2. 気になる子は出来るだけ舞台の袖近くにしておき、何かあった時はすぐに対応できる位置がよい。
3. 他児の体の一部があたるとトラブルの原因となるので、隣の子と手が当たらない位、間を開けておく。
4. 立ち位置にシール等で目印を貼っておく。
5. 手本を見せる時は、向かい合うのではなく同じ方向を向く。
6. 1日の練習の回数、待ち時間は極力短くする。
7. 覚えてしまえば、練習に参加できない事があってもOKにする。

また、表4の事例2に挙げたように、特定の音楽を極端に嫌がる子が見られることがある

1～2歳児	2～3歳児	4歳児	5歳児
おゆうぎ・歌	おゆうぎ・簡単な合奏 (ダンプリン・カスタネット・ ピアノ・鈴 etc...を使っ て)・歌	おゆうぎ・ 合奏(ピアノ・ バスキー・マリンバ・ 大太鼓・小太鼓 etc...)・歌	おゆうぎ・オペレッタ・合奏 (ピアノ・シンセサイザー・ バスキー・マリンバ・ビブラ ホーン・大太鼓・小太鼓 etc...) 歌・はじまり、 おわりの挨拶(代表者)

表3 年齢別練習内容

が、保育者側としては、「わがままではなく、その子にとってとても苦痛な音が鳴っている。例えば私たちにとってキレイな音楽でもその子にとっては、ガラスを『ギーーー！』とひっかいているような音をずっと聞かされているように苦痛なのだ。」と理解した上で、表4にあるように、無理強いしないで、大丈夫な音楽のお遊戯に変えてあげることが望ましい。

2-3 本番の注意点

1. 運動会よりは出番も少なく時間も短いためトラブルは少ない。

- ① ただし、みんながバタバタしてしまう事によって落ち着かなくなる。
- ② 出来るだけ、その子が落ち着ける雰囲気の中で出番を待たせる。

2. 練習では付けられていた衣装やお面を本番で嫌がる事がある。その時は衣装やお面を付ける事より、舞台に立てる方を優先する。「もしかして本番はお面をいやがって付けられないかも...」となんとなく分かっている場合は、トラブルを避けるためにも、前もって保護者に、衣装やお面よりも舞台に立てる方を優先したいという事を伝えておく。

年齢	乳児	幼 児
トラブル事例1	衣装、お面を付けるのを嫌がるが多い。	
対処法1	運動会同様、お面に輪ゴムを付けるのを嫌がる子にはベルトに輪ゴムを付けない	
対処法2	本番通り、バックの絵を貼り衣装・お面を付けて並んでいる子の写真を撮って見せ、この絵が貼ってある時には、この衣装・お面を付けるという事を教える。	前もって知らせると乳児の時よりもスムーズに衣装やお面を付ける事ができる。
補足1	<家から着せて来てもらうと大丈夫な場合もある>	
補足2	<どうしてもダメな場合は無理強いせず、私服に近い衣装にし、その子だけは私服にすれば、あまり目立たない>	
トラブル事例2	特定の音楽を極端に嫌がる場合	
対処法	無理強いしないで、大丈夫な音楽のおゆうぎに変える	

表4 トラブル事例と対処法

3. 本番に頑張れるための工夫

- ① 前日に、本番の雰囲気や始まり・終わりがどこなのかを知らせ、最後まで頑張ったら「こんな（お土産など）楽しみが待ってるよ！」という事を知らせる。
- ② 前日、「頑張れるひと〜〜？」とみんなに聞き、「はい！」と手を上げさせるのも効果がある。

考 察

今回われわれは、W園での、アスペルガー症候群の子ども達に対する、スムーズな行事参加についての工夫・配慮について具体的に述べた。子ども達にいかにして、いやな経験をさせずに、楽しい経験をさせるかに重きを置き、いかなる場面においても、あくまで本人にとってつらい状況に陥らないようにする工夫と配慮に関して具体例を挙げて述べた。

子ども達が最初に家族以外の人たちと関わる社会生活の第一歩を踏み出す場は保育園や幼稚園である。その園生活の中で最も変化と感覚刺激に満ちた出来事は、行事（運動会・お遊戯会）である。したがって、そこで、アスペルガー症候群の子ども達に、失敗体験やいやな体験をさせずに、成功体験をさせるかは、今後の学校・社会での集団生活を、自信を持ってスムーズに過ごせるために非常に重要である。というのも、一般にいわれる「経験から学ぶ」、「失敗を糧にがんばる」、「いやなことは忘れて、楽しいことだけ思い出す」という言葉は彼らには当てはまらないからである。失敗や挫折経験、いやな経験を彼らは忘れることができない。むしろ、長年にわたってフラッシュバックという形で彼らを苦しめる。本人が望むと望まないに関わらず、突然、過去のいまわしい経験がリアルにそ

の時の感覚を伴って甦って、パニックをおこす原因となる。そのため、彼らに関わる大人は出来るだけ、失敗やいやな体験はさせないように配慮する必要がある。

パニックを予防し、失敗・挫折・嫌悪体験をさせないためには、何がパニックやトラブルの原因となるのかを知っておく必要がある。図5はパニックの背後にある様々な要因を自閉症スペクトラムの特性から氷山に例えて説明したものである。具体的には①援助が必要な場面で先生や周りの子どもたちに「手伝って」、「教えて」などの援助が求められないことや、「いや」、「やめて」といった拒否を表現できない。突然切れて怒り出して、周りがびっくりすることもある。②字義通りの解釈をすることから相手の言葉の真意がわからず勘違いする。例えば冗談が通じない、「何回言えばわかるの。」と怒られて、真剣に「後何回いわれたらわかるかな」と考え込むなどである。③例えば、静かに話を座って話を聞くような場面でも、暗黙に求められていることが理解できずに立ち上がってうろうろしたり大声をあげたりするなど、場の雰囲気が読めず、その場にそぐわない言動をとる。④「そこ」、「ちょっと」といった曖昧な言い回しが理解できない。そのため、「ちょっとそこで待ってて。」などといった曖昧な指示を出されると「どこで」、「どれだけの時間」待たなければいけないのかがわからずに困惑するといったことも起こる。⑤見通しが立てにくいいため、変化に弱く、予定の変更など想定外の出来事に非常な不安を持ち混乱する。⑥中でもこだわりや感覚の問題は大きい。例として、どうしても食べられない品目がある、白御飯は食べないが、ある特定のふりかけと一緒に食べられる、特定の製造元の牛乳しか飲まない、生理的に受け付けない音がある、感触の問題でどうしても着れない素材

の服がある、他児や先生と手がつながない、触られるのがいや、ほんの少しでもシミのついた服は頑として着たがらない、などである。しかし、現実には、こういった彼らの抱えている問題を十分に理解し、十分に配慮していても、上記に挙げたことが原因となつて、時として予想もしないことがきっかけで彼らがパニックを起こすこともある。

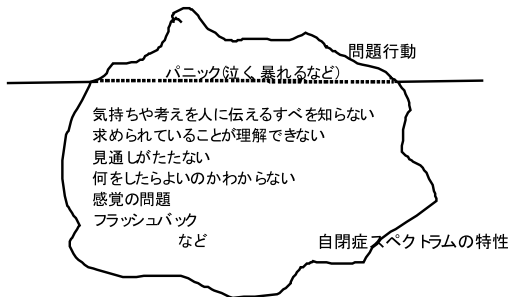


図5 氷山モデル

残念なことに、日頃このような問題を抱えている児と関わり保育している者の中には、彼らが日常会話を非常に流暢に話しているので、「普段これだけおしゃべりしているのだから『貸して』、『いやだ』がまさか言えないはずはあるまい。」など、本人の抱えている問題に気付かな

いでいる場合もあり、「頑固」、「わがまま」、「融通が利かない」、「些細なことで切れる子」という風にとらえられしうこともある。また、対応も一般の健常児に対する様な対応ではうまくいかないことが多い。例えば、けんかなどのトラブル時に「相手の立場にたって行動・発言すること」の大切さをこんこんと言い聞かせることは、もともと共感や想像力に乏しい彼らには効果的であるとはとても言い難い。従つて、時として、こういった子どもを前にして保育士は、どう対応したら良いのかわからずに途方に暮れてしまうこともある。彼らの立場から述べると、あるアスペルガー症候群の成人女性は自身の幼少期の園生活を振り返つて「動物園の猿山」(とにかく臭くてうるさい所)と表現していたが⁵⁾、ある程度スケジュールがはっきりと子どもに提示されている小学校以降と違い、子どもにとって明確なスケジュールがない保育園・幼稚園においては、ある程度一日の流れがつかめるまでの園生活は彼らにとっては、予測不可能な、何が次に起こるかわからない、今何をしたらよいのかわからない混沌とした空間と時間ととらえられるであろう。彼らが混乱せず楽しい園生活を送るために必要なことは、周りの大人が、表

苦手	得意	支援の方法
言葉を聞いて理解すること	目で見て理解すること	話し言葉より、視覚的に伝える
抽象的で曖昧なことを理解すること	具体的ではっきりしたことを理解すること	具体的に伝える
経験していないことを想像すること	経験したことを正確に記憶すること	見通しを目で見えるようにする
幅広くいろいろなことに興味をもつこと	興味のあることに対する集中力	興味のあることを活用する
全体の意味を把握すること	細かい部分をみること	注目するところを明確にする
応用したり、臨機応変に対応したりすること	学習したことをきちんとすること	役に立つ習慣を作る

表5 自閉症スペクトラムの子どもの苦手・得意と支援の方法 (6)より引用)

5⁶⁾に挙げるような彼らの特性を理解し、環境調整をすることである。

特に、日常からかけ離れて変化に富んだ内容になる行事とそれにむけての練習においては、「～したら～をする」、あるいは「～をどれだけするのか」といったように、内容、量、場所などの見通しをしっかりと持たせることと、関係者が、練習の時から本番を想定して起こりうる事態とその対処をあらかじめ想定しておくことが求められる。また、不測の事態を予測するためには、その子の特性を良く理解しておく必要がある。特に、こだわりや感覚の問題は個々によって様々であるため、普段からよく観察してその子が抱えている問題を具体的に把握しておく必要がある。そうすれば、本文に挙げたような本番に予期せぬ出来事がおこっても、迅速に対処でき、何とか、本番を乗り切ることが可能になる。また、その際には、一人の保育士ではなく、複数のスタッフで共通認識を持ちチームワークと連携で臨機応変に対応していく必要がある。

さいごに

保育園で生活をしていく中で、行事は付き物である。行事を経験する事により、子ども達は大きく成長し、社会性が身に付いていく。しかし、実際に保育士として子ども達と接していると、こういった行事は、コミュニケーションが苦手であったり、様々な感覚の問題を抱えている子ども達にとっては苦痛でしかないのかもしれないと感じることもある。それでも、こういった子ども達に対して様々な試行錯誤をしながら無理なくスムーズに行事へ参加できる方法を模索してきた理由は、「少しでも、友達と一緒にやり遂げたという達成感を味わってほしい」、

「みんなと同じ経験をしてほしい」という熱い思いにかられるからに他ならない。まだまだ完全ではないが、成功したほんの一例を紹介させていただく事で、同じ思いを持っておられる幼児教育に携わっている方や、自閉症スペクトラム障害の子どもを持っておられる保護者の方の何らかのヒントになり、1人でも他の園児と一緒に行事に参加できる子が増えてくれればと思う。

ちょっとした工夫だけで子供達も先生方も、とても楽に、とても楽しく練習に参加し、本番を向かえる事ができるという事実を目を向けて、ぜひ、前向きに取り組んでいていただきたい。

引用文献

- 1) Recent Advances in Autism Spectrum Disorders. Charles JM, Carpenter LA, Jenner W, Nicholas JS, Int J Psychiatry Med 2008;38(2):133-140
- 2) Genetics Evaluation for the Etiologic Diagnosis of Autism Spectrum Disorders. Schaefer GB, Mendelsohn NJ, Genet Med 2008 ;10(1):4-12
- 3) 高機能広汎性発達障害 アスペルガー症候群と高機能自閉症 杉山登志朗、辻井正次編著 ブレーン出版 1999年
- 4) ガイドブックアスペルガー症候群 親と専門家のために トニー・アトウッド 東京書籍 1999年
- 5) 自閉症者が語る幼少時代 第1巻 とてもつらかった… V-toneビデオライブラリー
- 6) 発達障害のある人の診療ハンドブック 厚労科研平成19年度「発達障害者支援のための地域啓発プログラムの開発」(堀江研究室)

参考文献

- 1) 教育は自閉症児を変える 第7回千葉県自閉症研究大会講演記録集 (社)日本自閉症協会千葉県支部
- 2) 発達障害児者の問題行動 その理解と対応マニュアル 志賀 利一 エンバワメント研究所

3) アスペルガー症候群のすべてがわかる本 佐々木正
美監修 講談社健康ライブラリー

4) 自閉症児のための絵で見る構造化 パート2 佐々
木正美監修 学研